

■円載 円仁とともに入唐し、円珍の著述で悪し様にののしられ、帰国しようとして溺死した悲運の天台宗遣唐僧。

えんさい

桓武天皇没・806= 生。大和国の人。

葉子の変・・・810= 4歳：幼少の時、最澄に師事、

・・・812= 6歳：この年、最澄が体調不良となって、後継者を円澄と定めたことから、

凌雲集・・・814= 8歳：この年、円珍が誕生、

・・・815= 9歳：

おそらく、円澄ののちで得度、

最澄没・・・822=16歳：この年、最澄が死去して、義真が法を継ぎ、

嵯峨上皇・・・823=17歳：

・・・824=18歳：

・・・828=22歳：この年、円珍が比叡山に登ってきた、

仏典に通曉し儒書にも精通するほど俊秀の誉れ高く、

仁明天皇・・・833=27歳：この年、円珍が得度、

空海没・・・835=29歳：*請益僧に選ばれた円仁・真済ら3人とともに、4人の留学僧の一人に選ばれ、

遣唐使大遭難 836=30歳：遣唐使船の4船が出航するも暴雨風雨に遭い、遣唐大使藤原常嗣とともに第一船に載っていて肥前に漂着、対馬に漂着した第三船で乗員全員が餓死するなか生き残った真済らは再渡唐を断念、

最後の遣唐使 838=32歳：*再び出航した遣唐使船も難破座礁したが、幸いにも揚州海陵県に上陸し入唐、円仁とともに天台山行きを願うが許可されず、揚州開元寺に滞留させられる。唐朝廷で楊貴妃の専横から皇太子廃立と直後の急死という混乱のなか、ようやく遣唐大使が長安へ出立、請益僧円仁の天台行きは不許可となったが、*ようやく認められ、5年間の食糧支給という条件で、天台山国清寺に入り、聖徳太子の「法華経義疏」などを納め、「五百問論」を書写。

遣唐使帰国終 839=33歳：*ようやく認められ、5年間の食糧支給という条件で、天台山国清寺に入り、聖徳太子の「法華経義疏」などを納め、「五百問論」を書写。

・・・840=34歳：皇帝文宗が死去して弟武宗が即位し、楊貴妃一族が滅亡させられた年、_比叡山で未決のままだった疑問について禅林寺の広修と維?から解答を得る(「唐決」)。

承和の変・・・842=36歳：武宗が仏教弾圧(会昌の廃仏)を開始、

・・・843=37歳：_弟子の仁好に託して「五百問論」「唐決」などを日本に送る。

・・・844=38歳：_5年間の満了したが長安行きを望み、仁明天皇から円仁とともに黄金二百両を給され、滞留延長も許可、

・・・845=40歳：会昌の廃仏がピークとなり外国僧追放令が出されたため還俗、国清寺も破却、円仁は長安を後にする。

良房右大臣 846=41歳：武宗が死去して宣宗が即位するとともに「会昌の廃仏」政策が破棄されて原状に復帰。

円仁帰国・・・847=42歳：この年、円仁が帰国。

・・・851=45歳：この年、円珍が入唐のため太宰府入り、

・・・852=46歳：_船待ちの間、「唐決」批判の書「大毘盧遮那指帰」を著す。

円珍入唐・・・853=47歳：円修・恵運らとともに円珍が入唐し、天台山国清寺で会う。円珍は日記に円載のことを悪し様に記す。

・・・854=48歳：越州の?県に戻り、

・・・855=49歳：蘇州に現れて以後、円珍とともに長安へ入り、青竜寺法全に従って密教の灌頂を受け、諸儀軌を授けられる。この間、円珍の弟子豊智が円載に共鳴し突然智聡と改名。以降10年、日本の記録からは消息を絶つ。

人民摂政の実 858=52歳：この年、円珍は帰国し、現存在唐私記「行歴抄」のなかで円載のことを克明かつ批判的に著述。

_この間、勅されて西明寺に住し、宮殿に召されて講経、紫袍衣を賜る。

・・・860=54歳：

・・・861=55歳：この年、_真如親王が宗叡らを従え入唐、

・・・863=57歳：真如親王が越州に迎えに来た智聡らを随伴して長安に向かい、

富士山噴火 864=58歳：到着すると、円載が止住していた西明寺に入り、円載は皇帝に奏上。皇帝から法全に疑問解決してもらうよう指示されるも、_満足な解答が得られなかった親王は天竺行きを決意、円載の奔走で勅許が得られ、

・・・865=59歳：*真如親王は天竺へ出立。この時、円載から密教呪術を学んだ宗叡は随伴せず、日本に帰国するが、円珍と悪な関係になる。以後、円載の消息は全く不明となり、

陰 応天門の変・866=60歳：

貞観格成立・869=63歳：

・・・877=71歳：*典籍数千巻を携えて帰途につき、暴風雨に遭って溺死したことが、生還した智聡によって知らされた。